

新・紀州林業への挑戦

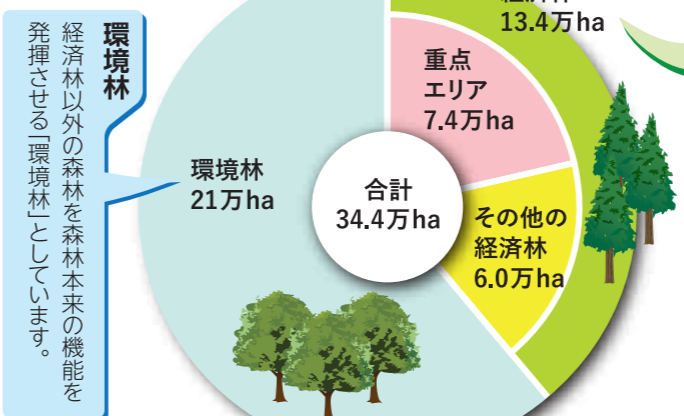
森林が県土の4分の3を占める本県は、古くから「木の国」と呼ばれ、スギ・ヒノキなどの優良材の生産地として知られていますが、輸入材の増加や建築様式の変化などによる国産材価格の低迷などから、林業・木材産業は、かつての活気が失われました。

そのような中、戦後植林し育ててきた本県の森林資源は、現在本格的な利用期を迎え、毎年約120万立方メートルの材積が増加していますが、伐つて利用されている量は4分の1に満たない状況にあります。

そこで、県では、林業の採算性を高めるため、木材生産を推進する「経済林」と森林の機能を維持する「環境林」に区分しました。それぞれにふさわしい支援の「選択と集中」を行うことで森林資源を最大限に活用し、「林業・木材産業の成長産業化」と「多様で健全な森林づくり」を図るとともに、「次世代の担い手の育成・確保」にも取り組んでいきます。



経済林
運搬用のトラックが走行できる道路から近く、傾斜が緩やかなスギ・ヒノキの森林を「経済林」に選定し、さらに、手入れが進み良質な木材の供給が見込まれる森林を「重点エリア」としています。また、豊富な資源を持続的に活用していくため、伐る・使う・植える・育てるという循環型林業に取り組んでいます。



活かす

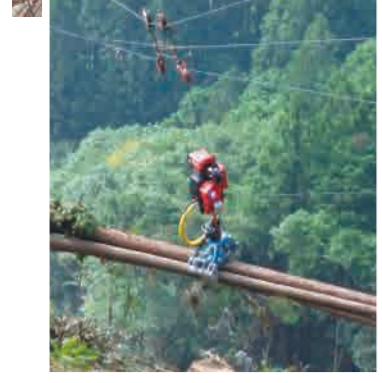
林業・木材産業の成長産業化
経済林

低コスト林業の促進

県では、林道、作業道等の整備を計画的に進めています。また、高性能林業機械の導入、集材機の開発やドローンの利活用拡大など、作業の安全性や林業の生産性の向上を図るため、新技術の開発支援に取り組み、効率的な森林経営を推進しています。



油圧式集材機
従来の複雑な操作を無線で簡単にできる集材機を開発。現在、架線集材作業の中で最も危険な荷掛作業について、遠隔操作でクレーンゲームのように木材をつかむことができる機械の開発に取り組んでいます。



ドローンによる苗木の運搬
新宮市の林業機械会社が資材運搬用ドローンを開発。重労働だった苗木運搬作業が効率的に行えます。

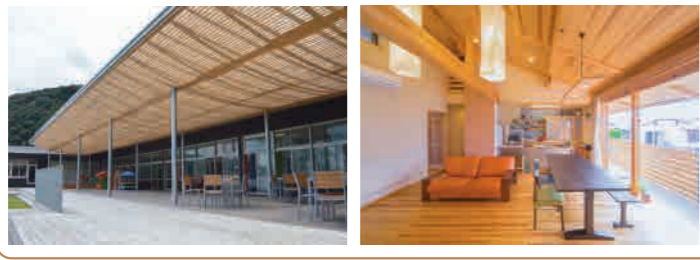


紀州材の利用拡大を進める

紀州材は、年輪が緻密で強度があり、色つやも美しくと高く評価され、東京オリンピックピック・パラリンピックの選手村ピレッジプラザでも使われています。また、木材の端材や間伐材などを燃料として発電する「木質バイオマス発電」を支援し、新たな木材需要の創出を図っています。

紀州材を使用した建築物などの支援

- 住宅**
県内で紀州材を使用した住宅を新築・増築・改築・リフォームされる方へ補助金を交付しています。
- 【構造材】最大20万円の補助**
【内外装材】5万円の定額補助
※補助条件など詳しくは振興局農林水産振興部林務課まで
- 公共施設等**
不特定多数の利用が見込まれる公共施設などの木造・木質化や木製品の整備を支援するともに、建築士の養成などにも取り組んでいます。



木に親しむ活動を推進

幼少の頃から木に親しんでもらう機会の創出に取り組んでいます。また、紀州材を用いた新たな木製品の開発を支援しています。

問 県庁林業振興課
☎073-441-2963
県庁森林整備課
☎073-441-2972